



**58号の主な内容**

- 世界ハビタットデー/ハビタットひろば
- 第53回ハビタットひろば
- スマイルイレゲーム
- SDGs ワークショップ
- ハビタット協力委員会懇談会
- 今後のスケジュール ■お知らせとお願い

**第58号**  
habitat-citizensnet.org

## ■世界ハビタットデー/ハビタットひろば

世界ハビタットデーは、毎年10月の第1月曜日に開催される国連ハビタットの行事で、持続可能な都市開発の推進を目的として、国連ハビタットのパートナー都市をはじめ世界各国で同日に国際イベントが開催されるものです。

福岡では10月7日アクロス福岡3階のこくさいひろばにて、第52回ハビタットひろばとして「『むだ』を価値に変えるごみ問題への取り組み」というテーマで行われました。



最初に、ハビタット福岡本部より、世界ハビタットデーの今年のテーマ「ごみ問題」についての説明があり、世界の課題として、

- ・ごみの3分の1は不法投棄されている
- ・再使用やリサイクルされるモノは5分の1
- ・下水の80%は未処理のまま河川に放流

があり、大気汚染、土壌汚染、水質汚染の原因になり、観光、漁業や健康に悪影響していて、30秒に一人が命を落としているとのことでした。特に最近、海洋ごみが大きな問題となっており、その80%は地上で発生しているとのこと。

そして、全ての人に呼びかけたいことは、

- ・ゴミをあらためて捉えなおす
- ・循環経済を見据えて、法律をつくる
- ・現在のゴミ管理について持続可能性を持つ新しい技術を調査する
- ・最先端技術の使用において、デジタル技術に関する権利や、倫理基準、非差別性、公開性、透明性を遵守する
- ・革新的なパートナーシップを通して、循環経済を達成するための新しい解決策を調査することなどの説明がありました。

続いて、九州大学大学院工学研究院環境社会部門の清野聡子準教授より、「『むだ』を価値に変えるごみ問題への取り組みに寄せて」と題して講演がありました。

アフリカ諸国における廃棄物管理に関して、「きれいな街プラットフォーム(ACCP)」が、環境省、国際協力機構(JICA)、国連



環境計画(UNEP)、国連ハビタットなどによって急速に都市化するアフリカのゴミ管理に取り込むため2017年に設立され2019年8月に横浜市で第2回会合が実施され、

- ・優良事例について共有、ゴミ問題について議論
- ・日本政府から福岡発のゴミ処理技術(福岡方式)の普及と人材育成の支援を表明

が行われたとのことでした。

また、海洋プラスチック問題に関する国際動向では、2016年5月のG7・伊勢志摩サミット、2017年7月のG20・ハンブルクサミット、2018年6月のG7・シャルルボワサミットなどで、動きがみられたそうです。

その他、海洋環境に関する地元での活動や持続可能な開発目標であるSDGsとの関わりについてもお話しがありました。



ごみ問題は、地球温暖化とともに早急に対策をとるべき重要な課題であるとの認識を新たにしました。

(尾形)

## ■第53回ハビタットひろば

ハビタットひろばとは、国連ハビタット福岡本部と福岡県国際交流センターによる合同レクチャーシリーズで、原則として偶数月の1日に、アクロス福岡3Fのこくさいひろばで行われているものです。

12月2日(月)アクロス福岡3階こくさいひろばにて第53回ハビタットひろばが「ネパールの持続可能な観光を通じた歴史遺産の保護」をテーマに開催されました。





今回のレクチャーでは国連ハビタットネパール事務所長のパドマ・ジョシさんと同事務所気候変動専門官座間昇さんが現地よりオンライン参加されて、現在実施中の「カトマンズ盆地における持続可能な観光及び歴史遺産のための緑の成長プロジェクト」の事業紹介がありました。



レクチャーでは 52 の人間居住区域が被害を受けた 2015 年のネパール大地震の際に、ブンガマティ地区は、当初人口約 4000 人、1090 世帯であったが、7 割の人が地震により亡くなったとの事例が挙げられました。同地区の再建・再興には建物だけでなく経済も崩壊していたため、人々の経済をどうするか、社会・文化の再建をどうするかを解決の主眼としたプロジェクトが EU、国連ハビタットなど 4 つの現地の団体が合同で立ち上げられました。

プロジェクトの目的は「貧困の削減」・「気候変動削減」・「持続可能な発展」とされ、ハビタットからは技術支援、女性・低所得者向けの政策提言がなされました。

「遺産の保護」「生態系の保護」「観光の促進」がプロジェクトの主な柱となっており、政府、自治体、開発パートナー、民間セクターがこのプロジェクトの主たる担い手ではありませんが、現地のグループ、コミュニティを動員する事を重要な要素として位置付けられました。実際には 13 のコミュニティ・グループがプロジェクトに入っており、公共インフラを復興させることで遺産の保護を図り、技術支援や民間家屋の復興により人間居住地区の改善に努めました。

映像ではブンガマティ地区のため池の復興が紹介され、お酒や木彫りの置物を作ることによる生計の再建や、サイクリングや稲作体験の開催が紹介されました。日本の国土交通副大臣も訪問されたそうです。

責任ある消費の促進、諸儀式への参加、無形の文化にも力をいれており、オーガニック農法で食べ物を作ったり試食したりする催しの紹介や、田植えの時期に皆で泥んこになりながらもスポーツも兼ねて愉しむライス・フェスティバルの様子がビデオで紹介されました。

ブンガマティ地区の人々の再建・復興を祈りつつ、現地スタッフの活動がリアルに伝わってくるプロジェクト紹介でした。(TY)

用できないことによる下痢性疾患で、大人を含め 200 万人が下痢性疾患で命を落としていること。不衛生なトイレは、感染や細菌等で病気になる人が増えること。家族がそのような理由で病気になることで、女性が看病をするようになり、学校や仕事に行けなくなるという状況にも陥り、お金を稼ぐことができなくなるといったことの説明がありました。

トイレ一つで健康なまちづくりに未来図が描けるんだと、認識出来ました。

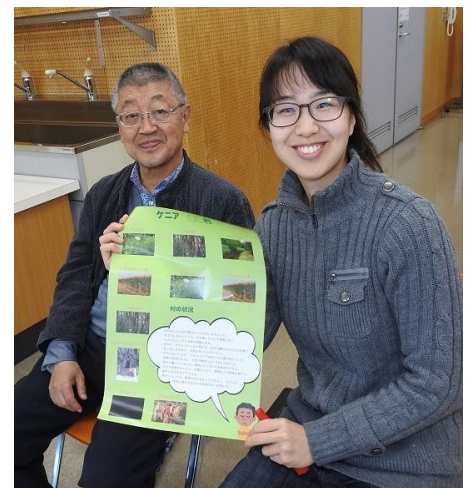
日本ハビタット協会では、単にお金や物資を支援するのではなく、現在の問題点を理解・実感していただき、現地の方自身が継続して行っていくとこのできる支援を行っているそうです。日本では当たり前のようにあるトイレが、小さな気配り、思いやりで世界中の健康や経済、社会、技術向上が見込め、世の中が素晴らしい世界になるんだ、と思いました。



その講義を踏まえて、太田さんのリードで、スマイルトイレゲーム(すごろく)が始まり、5つのチーム(村)に分かれて、村の名前を決め、村長を決めましたが、多くが女性村長(リーダー)となりました。

またそれぞれの村の現状や、トイレが使用できないことによる問題点の書かれたポスターをもらい、「自分の村をなんとかするぞー!」と、モチベーションが高まったところで、村ごとにトイレの建設個数を競うゲームのスタートです。

至るところにある「お金カード」と「技術カード」をゲットできるマスに止まることを目指しつつ、ゴールに向かいます。その文字どおり、継続的なトイレ建設には「お金」と「技術」が必須になることも、学びにつながります。集めた「お金カード」「技術カード」を、枚数に応じて SATO パン(便器)と水タンクと交換し、トイレを建設することができるようになる、というゲーム内容です。また、おなじみの「一回休み」や「OOマス戻る」「OOマス進む」「STOP」といったマスがあります。それぞれにはコメントが書かれており、例えば「干ばつのため作業が思うように進まず、一回休み」「マイクロファイナンスを学んで、お金を貯める知識ができた! お金カード一枚ゲット」というものがありました。更に「STOP」では講義内容をもとにしたクイズがあり、内容がしっかりと頭に入っているかどうかを試されさらに印象に残るものとなりました。



## ■スマイルトイレゲーム

11月23日(土)福岡県春日市のクローバープラザで、日本ハビタット協会による～トイレはまちづくりの特効薬～スマイルトイレゲームから学ぶ SDGs ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」が行われました。日本ハビタット協会は、国連ハビタット(人間居住計画)と共に、紛争・災害・貧困などにより悪化した居住環境を改善する支援事業を実施しています。



今回のセミナーでは、まず日本ハビタット協会の太田さんから世界のトイレ事情や日本では当たり前である「トイレを使用して排泄する」ということができないことから生じる問題等を説明していただきました。具体的には、世界では、3人に1人の人がトイレで排泄を行うことができず、トイレを清潔に使





単純に、早くゴールした村や、カードを多く集めた村の勝利というわけではないところもポイントです。トイレ建設個数に依りて、改めて、トイレ建設に伴って起こる村の変化を考え、どんなことに苦労したか、どんな問題が解決できたのかを、それぞれに考え、発表をしました。

ゲームを通して楽しみながら、かつ、自分たちも村の一員としてゲームに参加することによって、より身近なこのように感じることができました。



ちびっこもスマイルトイレゲームのPRに役

私たちにとってはあたりまえのようにあるトイレ。しかし、トイレがあるからこそ病気を防ぐことや、仕事や学校にも専念すること、お金を稼ぐことができているのだということに気づかされました。「トイレはまちづくりの特効薬」ということがよくわかりました。

皆さんも、スマイルトイレゲームやSDGsゲーム等、体験する機会があればぜひ参加をお勧めします。思考がシンプルになり、自分の将来や世界中の様々な未来が見えてきます。(TY・橋浦)

## ■SDGs ワークショップ

10月29日(火) FUKU-NET(福岡国際関係団体連絡会)主催で、持続可能な世界を実現するための国際目標SDGsを理解するための一般公開講座SDGsワークショップ「SDGsカードゲームを通してSDGsを体感しよう」が行われました。

ファシリテータは、株式会社エックス都市研究所の八百屋さやかさん。まずは、自己紹介が有り、SDGs(エスディーズ)とは何か?から、始まりました。

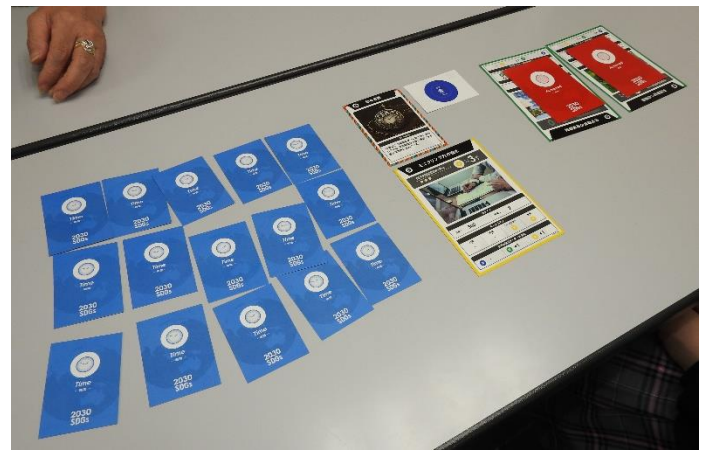
SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略で、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジ

ェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で、国連加盟193カ国がこの15年間で達成すべき行動計画です。



2030年に向けた17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成され、2017年1月17日、世界経済フォーラム(ダボス会議)において、ユニリーバ最高経営責任者のポール・ポールマンを含むビジネスセクターのリーダーが参加する会合で、SDGsに関する様々な議論がなされました。

持続可能な開発目標(SDGs)を達成することで2030年までに少なくとも12兆ドルの経済価値がもたらされ、最大3億8000万人の雇用が創出される可能性があるという話もされました。



さて、SDGsに関する説明は、これくらいにして、今回の主な目玉のSDGsカードゲームを実際にプレイしてきた感想を述べたいと思います。

このSDGsカードゲームは、プロジェクトカード、お金カード、時間カードおよびそれぞれのチームに与えられた目標が書かれたカードが配布されます。

要するに、それらのカードを上手に使いそのチームに与えられた目標を達成するために努力するといったところが、世界の人々がSDGsの目標を少しずつ達成していくというシミュレーションになっています。

初めのうちは、各チームは、自分のチームの目標達成の事ばかりにとらわれて、世界の経済、環境、社会システムの状況が見えていませんでしたが、そのうち、例えば世界環境が悪くなっているのをどうしたら改善できるか?といった社会全体を考るようになり、中には、目標達成の為にチーム同士で手持ちカードの交換をしたり、投資や寄付をしたりと、どうやったら、経済、環境、社会がバランスよく良い方向に向かうかをいつの間にか考え、協力し合い世界を良くしようとしていることに気づきました。

結果として、経済13ポイント、環境10ポイント、社会12ポイントとバランスのとれたいい結果となりました。

このようにSDGsカードゲームを通じて社会活動を体感することが出来、とても良い経験になりました。(中川)



## ■ハビタット協力委員会懇談会

10月29日、アクロス福岡 交流ギャラリーにて国連ハビタット福岡本部協力委員会懇談会が開催されました。



冒頭、服部福岡県副知事が挨拶され、麻生渡元福岡県知事の音頭で多国籍からなるハビタット職員・関係者、参加者皆で乾杯しました。参加者にはソロモン諸島の土地・住宅・調査省やベトナム海洋諸島局の官僚の方々も来られ、是澤本部長より国連職員、海外事務所各所長などの紹介がありました。



参加者はベトナム、ミャンマー、フィリピン、フランス、ブラジル、スリランカ、インド等多国籍に亘り、懇談会中は寿司やサザエ等の美味しい料理と飲み物があつたこともあり皆和やかな雰囲気フレンドリーに接していました。

またお会いしてお話してみたいと思う魅力的な方々ばかりでした。

途中で国際協カリーダー育成プログラムに参加した県内大学生3名により、スラム訪問などミャンマーでの活動が、スライドを使って報告されました。

発表者はフレッシュさとこれからの頼もしさを感じるメンバーたちでした。

晩秋の一時の楽しい夕べの懇談会でした。(TY)



## ■今後のスケジュール

12月21日 14:00~16:00 定例会  
Create Plaza (小郡市下西鯉坂 1462)  
ニュースレター第58号発送作業

2020年

1月15日 19:00~21:00 定例会  
総会議案書検討

2月19日 18:30~ 総会・懇親会  
グランチャイナ

3月18日 19:00~21:00 定例会

4月15日 定例会 ニュースレター59号発行

☆定例会は、原則として第3水曜日 19:00~21:00、会場は、NPO ボランティア交流センター「あすみん」各行事への積極的な参加をお待ちしております。

## ■お知らせとお願い

### ■ニュースレターのお届け方法の変更について

これまでニュースレターを郵送で皆様にお届けしていましたが、経費削減の目的で、来年度より E-MAIL による配信に切り替えさせていただくことになりました。なにとぞご理解をいただきたく、よろしくお願いいたします。

### ■年会費納入のお願いについて

2020年度の年会費を同封の郵便取扱払込票にて納入いただきたくよろしくお願いいたします。手数料は不要です。

年会費：一般 2000円  
学生 1000円

## 編集後記

編集をしている最中の12月4日午後、パジャワール会の中村哲さんがアフガニスタンで何者かに銃撃されなくなれという衝撃的なニュースが飛び込んできました。4年前にお会いしていただけに本当に残念です。ご冥福をお祈りします。(牟田)



## 事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先：  
〒838-0134 小郡市下西鯉坂1493 牟田慎一郎宛  
お問い合わせ：  
TEL：090-6770-2481(牟田)  
FAX：0942-41-2080  
E-mail：muta@ktarn.or.jp  
Facebook：ハビタット福岡市民の会  
HomePage：http://habitat-citizensnet.org